

キャリアバンと魔女 資本主義に抗する女性の身体

シルヴィア・フェデリーチ 著

小田原琳・後藤あゆみ 訳

以文社 2017年2月

4600円＋税



魅力的なタイトルに加え、本書の帯には「ジェンダーとは階級である」との挑発的なキャッチフレーズ。それだけを見れば、社会主義的なフェミニズムの有効性を強く主張する本であると思われるかもしれない。だが、この本はそういう本ではない。確かに、ジェンダーそれ自体の機能を分析する際に、マルクス主義のアイデアを用いてはいる。だが、その有効性を主張するというよりはむしろ、そうした概念の限界を歴史の丹念な検討を通じて見定め、それを乗り越えるための視座を生み出そうとする試みである。また、その試みはジェンダーを安易に文化という語に還元せず、政治の次元に置き直そうとするものでもある。

フェミニズムの運動と理論的発展によって、今やジェンダーという視点は何を分析するにしても不可欠なものとなった。しかし、フェデリーチの著したこの本は、それだけでは足らぬと主張しているように読める。女性の身体が巻き込まれてきた面倒事、その最たるものである魔女狩りという凄惨な負の歴史の分析を通じて、これまで不可視化されてきた女性の身体になされた政治の負の側面を剔抉する。註も合わせれば500頁を超える大著ではあるが、明快な訳文のおかげで読み進めやすい。歴史に学ぶことの重要性を現代の問題につながるかたちで提示した好著、是非ともお手に取らねたい。

(佐藤 静)